

荷待待機時間、荷役作業等の記入欄の記載方法

1. 集荷又は荷降ろしを行った地点（集荷地点等）で荷役作業、附帯業務（荷役作業等）を実施した場合に記載すること。
2. 荷役作業、付帯業務の内容はできるだけ詳細に記載すること。
 例） 荷役作業 － 積込み（手荷役・機械荷役）、荷降ろし（手荷役・機械荷役）
 附帯業務 － 荷造り、仕分け、検収・検品、横持ち、縦持ち、棚入れ、ラベル貼り、はい作業、その他の附帯業務
3. 記載内容について荷主が確認した場合は、「荷主側担当者確認欄」に担当者のサイン等を記入してもらうこと。
 確認が得られなかった場合は、その旨が分かる記載（担当者不在等）をすること。

〈記載例〉

荷主確認が得られた場合

集荷地点等	荷主指定時刻	到着時刻	荷役作業開始・終了時刻	荷役作業内容	荷主側 担当者 確認欄
〇〇〇〇	9:00	8:40	9:20~10:00	積込み 手荷役	
附帯業務開始・終了時刻	附帯業務内容	出発時刻	荷主都合による荷待時間	荷主確認	△△ △△
9:00~9:20	荷造り	10:00	時間 分	有・無	

荷主確認が得られた場合

集荷地点等	荷主指定時刻	到着時刻	荷役作業開始・終了時刻	荷役作業内容	荷主側 担当者 確認欄
■ ■ ■ ■	16:00	15:50	16:40~17:20	荷降ろし 機械荷役	
附帯業務開始・終了時刻	附帯業務内容	出発時刻	荷主都合による荷待時間	荷主確認	担当者不在
17:20~17:50	仕分け	17:50	時間 40分	有・無	

※ 上記1、2、3、は車両総重量が8トン以上又は最大積載量が5トン以上の車両に乗務した場合に限る。

※ 上記1、2、3、は荷主との契約書に実施した荷役作業等の全てが明記されている場合は、荷役作業等に要した時間が1時間以上である場合に限る。

運 転 日 報

事業者名 _____

社 長	統括運行管理	運行管理者	補 助 者

運転者名	
車番	
車種 ト数	

総走行キロ	帰庫時 メーター					
	出庫時 メーター					
	差引計					

稼働時間	時間	分
出庫時刻	時	分
帰庫時刻	時	分

運転者の交代・事故・著しい運行の遅延その他の異常な状態及びその原因は、備考欄に記入必要

年 月 日 ~ 月 日

日付 /	得意先名	発地	時刻 自 時 分	走行キロ km
品目		着地	時刻 至 時 分	実車キロ km
積載トン数	個数	積載状況・荷姿	備考欄	
集荷地点等	荷主指定時刻	到着時刻	荷役作業開始・終了時刻	荷役作業内容
	: :	:	: ~ :	
荷主側担当者確認欄				
附帯業務開始・終了時刻	附帯業務内容	出発時刻	荷主都合による荷待時間	荷主確認の有無
: ~ :		:	時間 分	有・無
集荷地点等	荷主指定時刻	到着時刻	荷役作業開始・終了時刻	荷役作業内容
	: :	:	: ~ :	
荷主側担当者確認欄				
附帯業務開始・終了時刻	附帯業務内容	出発時刻	荷主都合による荷待時間	荷主確認の有無
: ~ :		:	時間 分	有・無

日付 /	得意先名	発地	時刻 自 時 分	走行キロ km
品目		着地	時刻 至 時 分	実車キロ km
積載トン数	個数	積載状況・荷姿	備考欄	
集荷地点等	荷主指定時刻	到着時刻	荷役作業開始・終了時刻	荷役作業内容
	: :	:	: ~ :	
荷主側担当者確認欄				
附帯業務開始・終了時刻	附帯業務内容	出発時刻	荷主都合による荷待時間	荷主確認の有無
: ~ :		:	時間 分	有・無
集荷地点等	荷主指定時刻	到着時刻	荷役作業開始・終了時刻	荷役作業内容
	: :	:	: ~ :	
荷主側担当者確認欄				
附帯業務開始・終了時刻	附帯業務内容	出発時刻	荷主都合による荷待時間	荷主確認の有無
: ~ :		:	時間 分	有・無

日付 /	得意先名	発地	時刻 自 時 分	走行キロ km
品目		着地	時刻 至 時 分	実車キロ km
積載トン数	個数	積載状況・荷姿	備考欄	
集荷地点等	荷主指定時刻	到着時刻	荷役作業開始・終了時刻	荷役作業内容
	: :	:	: ~ :	
荷主側担当者確認欄				
附帯業務開始・終了時刻	附帯業務内容	出発時刻	荷主都合による荷待時間	荷主確認の有無
: ~ :		:	時間 分	有・無
集荷地点等	荷主指定時刻	到着時刻	荷役作業開始・終了時刻	荷役作業内容
	: :	:	: ~ :	
荷主側担当者確認欄				
附帯業務開始・終了時刻	附帯業務内容	出発時刻	荷主都合による荷待時間	荷主確認の有無
: ~ :		:	時間 分	有・無

日付 /	得意先名	発地	時刻 自 時 分	走行キロ km
品目		着地	時刻 至 時 分	実車キロ km
積載トン数	個数	積載状況・荷姿	備考欄	
集荷地点等	荷主指定時刻	到着時刻	荷役作業開始・終了時刻	荷役作業内容
	: :	:	: ~ :	
荷主側担当者確認欄				
附帯業務開始・終了時刻	附帯業務内容	出発時刻	荷主都合による荷待時間	荷主確認の有無
: ~ :		:	時間 分	有・無
集荷地点等	荷主指定時刻	到着時刻	荷役作業開始・終了時刻	荷役作業内容
	: :	:	: ~ :	
荷主側担当者確認欄				
附帯業務開始・終了時刻	附帯業務内容	出発時刻	荷主都合による荷待時間	荷主確認の有無
: ~ :		:	時間 分	有・無

日常点検表

点検箇所	点検項目	／				／				点検・確認事項	／				良	否	良	否	良	否	良	否		
		良	否	良	否	良	否	良	否		良	否	良	否										
運転中の異常箇所	当該箇所の異常									灯火装置、方向指示器	点灯、点滅具合、汚れ、損傷													
運転席での点検	ブレーキ・ペダル	踏みしろ・ブレーキのきき								タイヤ □取付けの状態は下記記載のとおりです。	空気圧													
	駐車ブレーキ・レバー	引きしろ(踏みしろ)							□取付けの状態															
	原動機(エンジン)	※かかり具合、異音									亀裂、損傷													
		※低速、加速の状態									異常な摩耗													
	ウインド・ウォッシュャ	※噴射状態									※溝の深さ													
	ワイパー	※拭き取りの状態								◎エア・タンク	タンク内の凝水													
	◎空気圧力計	空気圧力の上がり具合								◎(ブレーキ・ペダル)	※(踏みしろ・ブレーキのきき)													
	◎ブレーキ・バルブ	排気音								◎(ブレーキ・ペダル)	※(踏みしろ・ブレーキのきき)													
エンジン・ルームの点検	ウインド・ウォッシュャ・タンク	※液量							運行記録計その他の機器の作動															
	ブレーキのリザーバ・タンク	液量							運転日報、運転記録用紙	有	無	有	無	有	無	有	無	有	無					
	バッテリー	※液量							非常信号用具、消火器、車止、停止標示板	有	無	有	無	有	無	有	無	有	無					
	ラジエータなどの冷却装置	※水量							運転免許証	有	無	有	無	有	無	有	無	有	無					
	潤滑装置	※エンジン・オイルの量							自動車検査証、自賠責保険証、点検整備記録簿	有	無	有	無	有	無	有	無	有	無					
	△ファン・ベルト	※張り具合、損傷							スベア・タイヤ、工具類	有	無	有	無	有	無	有	無	有	無					

- (注) 1. ※印の点検項目は、「自家用貨物など」、「事業用など」に分類される自動車にあっても、自動車の走行距離や運行時の状態などから判断した適切な時期に行えばよいものです。
2. ◎印の点検箇所は、エア・ブレーキが装着されている場合に点検してください。
3. △印の点検箇所は、「自家用乗用など」に分類される自動車にあっては、定期点検の際に実施するなどしてください。
4. □印の点検項目は、「大型車」の場合に点検してください。

日常点検の実施の方法

日常点検は、運転者が自分自身の責任において行う点検です。ご自身が運転席にすわったり、エンジン・ルームをのぞいたり、また、自動車の周りを回りながら自動車の状態をみることによって容易に実施可能なものを中心としています。

1日1回、その運行の前に実施することが必要です。これはトラックが多くの貨物を運送するという公共性が高いことなどから、より確実な点検を実施していたくためのものです。特に安全上重要な装置であるブレーキに関しては、丁寧な点検を適切な時期に実施することが必要です。

タイヤ

□取付けの状態

- ディスク・ホイールの取付状態について、目視により次の点検を行います。
 - ・ホイール・ナットの脱落、ホイール・ボルトの折損等の異状はないか。
 - ・ホイール・ボルト付近にさび汁が出た痕跡はないか。
 - ・ホイール・ナットから突出しているホイール・ボルトの長さに不揃いはないか。
- ディスク・ホイールの取付状態について、ホイール・ボルトの折損、ホイール・ナットの緩み等がないかを点検ハンマなどを使用して点検します。(タイヤ交換の際には、「3定期点検の実施の方法」の「ホイール・ナット及びホイール・ボルトの損傷」に示す方法その他の方法により点検し、タイヤ交換後、ディスク・ホイールの取付状態に適度な馴染みが生じる走行後(一般的に50~100km走行後が最も望ましいとされています。)、トルク・レンチを用いるなどにより規定トルク(自動車製作者が定めるトルク値をいう。)でホイール・ナットを締め付けます。この場合において、JIS方式のダブル・タイヤの場合は、ホイール・ボルトの半数(1個おき)のアウトター・ナットを緩めて、インナー・ナットを締め付けます。次に、緩めたアウトター・ナットを締め付けます。その後、ホイール・ボルトの残りの半数のアウトター・ナット及びインナー・ナットについても同様の措置を講じます。)

点検による異常箇所及びその処置	日
日	日
日	日